

写真1 出土した菊丸瓦と復元案（原寸）



きくまるがわら 菊丸瓦とは、本瓦葺の棟の部分に装飾として使用される瓦のうち、菊紋を持つ瓦のことをいいます。一般に桃山時代以降に使用されるようになり、現在では寺院などでも見ることができます。

参考写真：岐阜別院本門の菊丸瓦

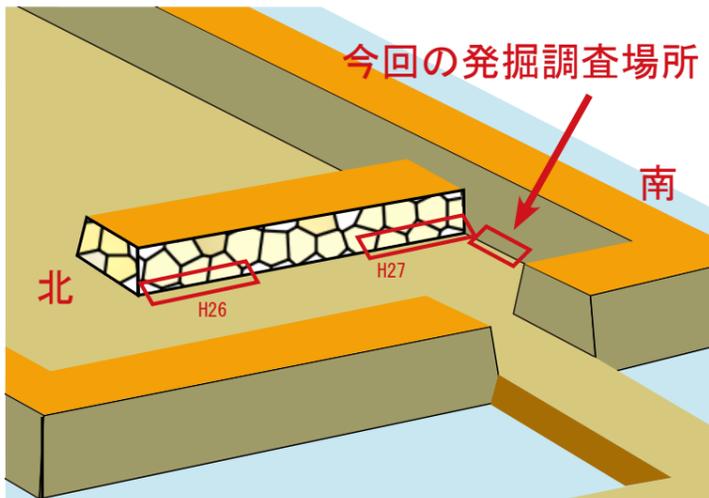


図2 黒野城の柵形虎口模式図



写真2 調査区全景（北東から）



写真3 集石遺構（北から）



写真4 出土した石材（西から）

しゅうせきいこう
集石遺構

しゅうせきいこう 集石遺構は調査区の南端で確認しました。確認できた長さは6.5m、幅0.8m、厚さ0.3mです。

調査区内で石垣の石材1点が出土しましたが、公園造成時の攪乱の中に入っており、元の位置を保っていません。確認できた石の大きさは南北77cm、東西44cm、厚さ24cm。材質は砂岩で、推定重量は約100kgです。

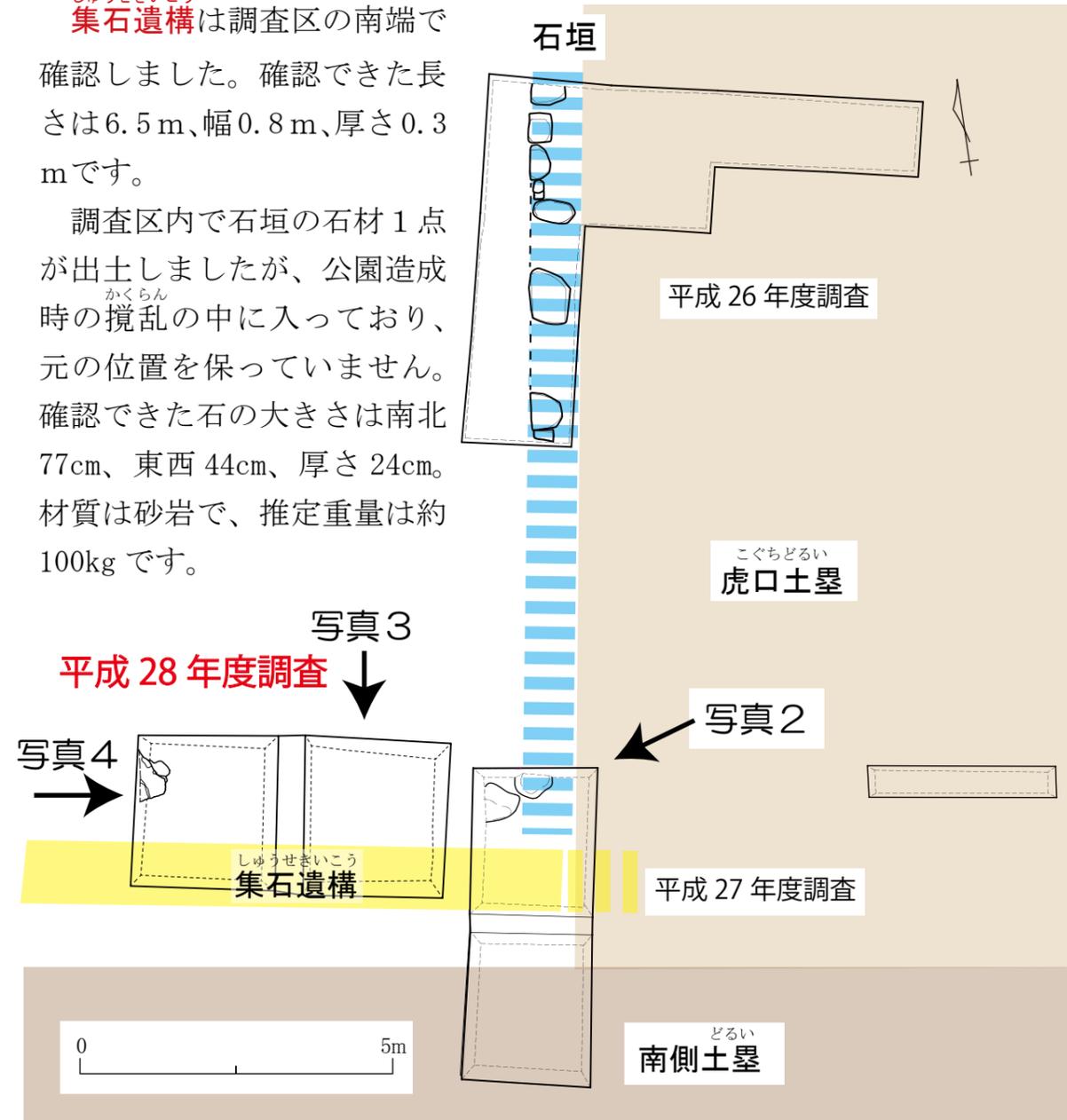


図1 調査の位置とこれまでの虎口付近の調査成果